

第8次鹿沼市総合計画 政策評価結果

政策評価とは

総合計画の進捗を管理し、PDCAサイクルに基づく効率的な行政運営の実現を図ることを目的に、第8次総合計画の施策体系に対応し、事業評価―施策評価の二段階で実施する。

事業評価： 総合計画における実施計画掲載事業について、事業実績や決算状況に基づき、妥当性、有効性、効率性等の観点から評価し、改善や見直しにつなげる。

施策評価： 総合計画に掲げた目標指標の達成状況、施策を構成する事業の評価結果に基づき、外部の視点から評価し、施策の方向性を検討する。

1 政策評価結果の総括

令和6年度は、第8次鹿沼市総合計画の二年目にあたる令和5年度分、83事業32施策を評価した。また、次期総合計画の策定を見据え、令和7年度までの見込みを踏まえた評価とした。

事業評価では、評価対象となる83事業のうち、改善の方向性として、「A評価」が58事業（69.88%）、「B評価」が24事業（28.92%）、「C評価」が1事業（1.20%）であり、各分野で着実に事業が実施されており、評価結果を踏まえ、より効果的・効率的な事業実施を図る必要がある。

施策評価では、全体として「A評価」が68.03%、「B評価」が26.73%、「C評価」が5.26%であった。

概ね順調に進捗している一方、一部の施策ではC評価を受けており、それらの施策においては、要因の分析を進めるとともに、外部評価結果を次期計画に反映していく必要がある。

2 事業評価結果総括表

評 価	改 善 の 方 向 性	事 業 数
A 評 価	計画どおり事業を進めることが適当である。	5 8 事業
B 評 価	事業の進め方を改善・検討する必要がある。	2 4 事業
C 評 価	事業規模・内容又は実施主体の見直しを検討する必要がある。	1 事業
D 評 価	事業の抜本的な見直し又は休・廃止を検討する必要がある。	0 事業

3 施策評価結果総括表

A評価：計画どおり、B評価：要改善、C評価：見直しが必要

No.	施 策 名	外 部 評 価 結 果		
		A 評価	B 評価	C 評価
1	希望が叶い、安心して出産・子育てできる環境づくり	76.2%	23.8%	0.0%
2	すこやかな成長を実現する保育サービスの充実	57.1%	42.9%	0.0%
3	良好な家庭環境の構築	90.5%	9.5%	0.0%
4	未来を拓く学校教育の推進	71.4%	23.8%	4.8%
5	次代につなぐ教育環境の充実	81.0%	14.3%	4.8%
6	地域とともに高める学びの推進	42.9%	52.4%	4.8%
7	スポーツでつくる健康都市の推進	76.2%	19.0%	4.8%
8	共に助け合う地域づくりの推進	70.0%	25.0%	5.0%
9	健康づくりの推進と地域医療の充実	81.0%	19.0%	0.0%
10	高齢者福祉の充実	28.6%	66.7%	4.8%
11	障がい者福祉の充実	95.2%	4.8%	0.0%
12	社会保障の確保	85.0%	10.0%	5.0%
13	雇用の創出と働く環境づくり	76.2%	14.3%	9.5%
14	地域と連携した商工業の振興	71.4%	19.0%	9.5%
15	資源を活かした「選ばれるまち」の創造	42.9%	42.9%	14.3%
16	戦略的農業の推進	47.6%	38.1%	14.3%
17	持続可能な森林経営と木材の循環利用	76.2%	23.8%	0.0%
18	環境に優しい持続可能なまちづくり	38.1%	52.4%	9.5%
19	3 R の推進と循環型社会の形成	81.0%	19.0%	0.0%
20	持続可能で暮らしやすい都市空間の形成	61.9%	28.6%	9.5%
21	安全安心な水道水の供給	66.7%	28.6%	4.8%
22	良質で安全安心な水循環施設の整備	85.7%	14.3%	0.0%
23	道路・河川・公園などの都市基盤の充実	61.9%	28.6%	9.5%
24	様々な危機に対し生命と財産を守る防災力の強化	76.2%	19.0%	4.8%
25	強固で持続可能な消防体制の確保	76.2%	19.0%	4.8%
26	安心して暮らすことができる生活環境づくり	61.9%	33.3%	4.8%
27	彩り豊かな協働による市民が主役のまちづくり	38.1%	52.4%	9.5%
28	多様性を認め合い誰もが個性や能力を発揮できる社会づくり	38.1%	57.1%	4.8%
29	シティプロモーション・移住定住の戦略的推進	66.7%	28.6%	4.8%
30	健全な行財政基盤づくり	80.0%	15.0%	5.0%
31	行政情報の発信と市民の声の把握の充実	85.0%	5.0%	10.0%
32	多様な幸せを実現するためのデジタル化	90.0%	5.0%	5.0%

施策評価に係る外部評価及び意見一覧

No.	内容	
1	施策名	希望が叶い、安心して出産・子育てできる環境づくり
	意見等	人口を増やすには、安心して子育てできるまちづくりが必須。女性も男性も働きながら子育てできる市を目指したい。 事業継続のために保育士や職員の人材確保が重要であるため、対応をお願いしたい。 消滅可能性自治体にはならなかったが、若年女性減少率が47.9%と非常に危うい状態にある。実効性のある対策が早急に必要。 学校統廃合の前に児童クラブの場所や移動方法等、保護者も利用しやすいように工夫してほしい。 産科が少ない。 出産・子育て支援は重要課題であるが、出産する前の若者の居住、生活等鹿沼に住んでもらえる施策が重要。 他自治体と比べて決して劣る部分はない。 このまま事業を推進してほしいが、学校の統合・再編の状況を見極めながら進めていただきたい。 また、保育士の確保も力を入れるべき。 放課後児童クラブの運営について、特に保護者会運営のクラブにおける安定的な運営に向けた具体的な施策を早急に打ち出す必要性がある。利用者等からの苦情に適切な対応がとれる仕組みも整えてほしい。 施策の将来像と実施している事業がかみ合っていないのではないか。
2	施策名	すこやかな成長を実現する保育サービスの充実
	意見等	隠れ待機児童である保留児童数を明確に把握しながら、市民のニーズに合った保育環境の整備が必要。 人口減少に即した施設等の環境整備が必要。 保育定員の拡充をもっと図ってほしい。 十分に進められている。 民間・公立を問わず、保育園の環境整備は必須。 希望する保育園に入所できず、家での待機やあきらめて遠い場所へ通園することがなくなるよう努力してほしい。 魅力ある保育園の受け皿を増やし、保育士の人材確保に努め、保留児童を減少させていただきたい。
3	施策名	良好な家庭環境の構築
	意見等	「こども家庭センター」が設置されたことは大変ありがたい。 ネグレクト等学校でも対応が難しい件が多数あるので、連携をより一層深めることが重要だ。 児童虐待に関する相談件数が高止まりの傾向である以上、相談対応力の向上が必要であると同時に支援体制や施策についての周知強化も検討すべきである。 児童虐待に関する相談件数が5年間で8,232件と多いことが問題である。虐待を減らす施策を早急に実施してほしい。 ひとり親家庭でも安心して働ける企業情報の提供を推進してほしい。 更なる拡充を期待する。 児童虐待に対応する相談員の更なる確保が必要。最近は相談後の対応は早くなってきたが、まだまだである。力を入れていただきたい。

No.	内容	
4	施策名	未来を拓く学校教育の推進
	意見等	英語教育では、学校だけではなく、家庭意識の高揚も図れるようにしたい。 今後も継続的にALTの活用をお願いしたい。 英語教育をもっと充実させ、外国人に対する苦手意識をなくすようにすることが必要。 鹿沼市として特徴を出した教育環境を構築してほしい。 クラブ活動の軽減により、子ども自身の心の余裕を大切にしたい。 塾講師や家庭教師として20年以上携わっているが、不登校生の受け皿が塾や家庭教師となっているのが現実である。相談員として教育相談に参加できれば、この状況を少しずつ改善出来ると考えている。 自分で計画を立てて学習している児童・生徒は、ここ数年変化がないように見える。目標値も、1%を上げるのではなく、重要課題として数値を上げ、全力で取り組んでほしい。
5	施策名	次代につなぐ教育環境の充実
	意見等	学校の再編が進む中、閉校間近の学校においても他の学校と同じような環境を保持することは大切である。校舎の管理も大変だが、校庭の維持管理は学校職員にとってかなりの負担となっている。 引き続き、計画的な整備をお願いしたい。 学校再編は進めるべきだが、地域の要望は最大限くみ取ってほしい。 ICT機器の整備よりも、いかに使うかを明確にしてICTを普及させる施策が必要。 体育館の冷暖房設備に太陽光やバイオマス等の環境に配慮したエネルギーを使用してほしい。 プールを修繕し、健全な環境で学ばせてほしい。 小中学校に現在は和式のトイレはないと思うが、環境整備は予算の範囲内で積極的に実施してほしい。 東中のみマンモス校となっている現状は早急に解決すべきである。学校新設という視点だけでなく学区の再編により不均衡は低減できるのではないか。 小中学校の環境整備は、力を入れていただきありがたい。 学校の統合が進んでいるが、まだ時間がかかる地域もあるので、特にエアコン整備は、入っていない教室などをお願いしたい。
6	施策名	地域とともに高める学びの推進
	意見等	かめま生涯学習大学の継続的運営が円滑に進むよう取り組んでほしい。 公民館が、集会場としての役割が主で、法で定める教育機関としての使われ方が少ないように感じるため、積極的に活用してほしい。 コミュニティスクール委員への報酬支払いについては慎重に考えてほしい（委員として報酬は必要ないと思う。）。 男女比や年齢等、アンケート調査をして、より充実した講座を市民自ら考え、魅力ある講座が増えるようにしてほしい。 宇都宮南図書館にある自習室と同様の自習室を鹿沼にも作ってほしい。 社会教育において「社会科学系」の学びの機会が少ないと感じる。法学や経済学、商学など「騙されず賢く生きる」実学がもっとあっても良いのではないか。 市民文化センター利用者は、この項目の指標には関係ないように思える。生涯学習は、以前から鹿沼市の代表的な市民活動なのでもっと行えるよう、カレッジ事務局が力を発揮できる体制づくりをお願いしたい。 全体的に予算圧縮の方向性が感じられる。事業内容や質が後退することのないよう進めていただきたい。

No.	内容	
7	施策名	スポーツでつくる健康都市の推進
	意見等	各施設の改修が計画的に進むことで利用者数の増加につながる。 小中学生男子の運動能力が全国平均を下回り、運動する機会も少ない状況は将来に向けて不安である。改善するための施策が必要。 スポーツとコミュニティを掛け合わせたまちづくりで、心と体の健康づくりを検討してほしい。 車で移動できない方（免許証のない方）の交通手段を充実させ、会場に行きやすくする必要がある。 十分に進められている。 週1日以上スポーツする市民の割合が低いので、いろいろなスポーツ、誰でもできるニュースポーツをPRし、楽しんでいただけるよう力を入れてほしい。 運動施設利用者が増えるよう、鹿沼運動公園温水プールや各施設の改修を迅速に進めていただきたい。 鹿沼市のスポーツ施設は、どれも劣っている。
8	施策名	共に助け合う地域づくりの推進
	意見等	保護司や民生委員・児童委員の活動について、さらに地域の方に啓発、情報発信が必要。 民生委員・児童委員に対する支援を継続しつつ、充実を図っていただきたい。 施策名と事業が合致していない。 参加率向上に向けた対策が必要。 リアルタイムでボランティアに参加できる人（年齢・立場）は限られているが、何らかの形で参加したい人は多いと思われる。そのような人たちが少しでも参加できるような機会が設けられればと思う。 ボランティア活動というと、だれかを助けるイメージがあるが、地域のため、子どもたちのためというふうに、だれでもできるボランティアをもっとPRして参加してもらえるようにしてほしい。 民生委員・児童委員の担い手不足や地域ボランティアの考え方を検討すべき。
9	施策名	健康づくりの推進と地域医療の充実
	意見等	健康マイレージをさらに周知するとよい。 各種事業をわかりやすく周知・PRする方法の検討が必要。 健康診断は、10年ほど前から国保と社保の人の健診内容が異なり、社保の人は基本的なことが受けられない（血液や血圧、視力、聴力等）。同じ市民なので受けられるようにして、病気を早期に発見できるようにしてほしい。 健康マイレージ事業の参加者数が少ないため見直しが必要。廃止も考える必要がある。 自殺死亡率の定義は不明だが、自殺者数を指標にするとより分かりやすいのではないかと。 引き続き健康づくりの推進については市が力を入れていくべき。鹿沼ならではのイベントで健康について考えていく講座を発見してほしい。 健康マイレージの利用者大幅増を目指し、取り組みの方向性を再検討してほしい。がん検診の受診率向上、がん教育の推進により、市民の健康を今以上に守れる取り組みを目指していただきたい。
10	施策名	高齢者福祉の充実
	意見等	ほっとホームの利用者数を増やすための工夫・改善が必要。 今後さらに高齢化が進むにつれ、ますます必要となる支援である。サービス向上につながるよう検討してほしい。 見守りつつ、自立した生活が送れるような施策が必要。 ボランティアポイント制度の導入を検討する必要がある。フレイル対策が必要。 買い物難民への対策が必要。一人暮らしの高齢者への健康確認、医療機関への通院支援が必要。 在宅かつ老々介護については、不動産業として実社会に触れているとかなり多数であると感じる。より積極的な介入及び支援が急務。 ほっとホーム、ほっとサロンの内容に高齢者が興味を持つような内容を取り入れてほしい。人数は増えているので、やりたいことのアンケートなどをとるとよい。 介護人材の確保と質を向上できる具体的な取り組みの検討をお願いしたい。

No.	内容	
11	施策名	障がい者福祉の充実
	意見等	各目標指標の実績値は、毎年度良好な結果となっており、今後も継続した取り組みを期待する。 障害者雇用の促進が必要。 継続を期待する。 障がい児通所支援、障がい児相談支援サービスの利用人数が目標値より高くなっているため、もっと高い数値を掲げてほしい。どうしてこの数字なのか疑問である。
12	施策名	社会保障の確保
	意見等	生活困窮者への支援と困窮者となる前の支援が必要。 特定検診の受診率は、毎年度目標値を超えているが、国・県レベルの受診率に近づくよう取組をお願いする。 人間ドック補助金の申請者数をふやせないか。 県西健康福祉センターで手軽に健診が受けられなくなったことは痛手である。また、病院では予約が取りにくいという話をよく聞く。 市民の健康については市が積極的に進めていくことが必須である。
13	施策名	雇用の創出と働く環境づくり
	意見等	産業団地の整備は順調な一方で、雇用者数について目標値と乖離がみられる。 鹿沼インター産業団地は、雇用創出に大きな期待が持てる。今後も継続した新たな産業団地の確保が必要。 西北部の空き施設への企業誘致を強化してほしい。 早急に次期産業団地の着手が必要。小規模店のテナントが少ない。 企業誘致により雇用創出は可能である。反面、パートとして働く人の時給単価に（地域の企業との）大きな開きが発生し、地元企業からの流出があることも課題。 新しい方法での求職者（新卒・中途）と企業とのミスマッチのないマッチング方法を提案したい。他の市町村では取組んでいない手法のため、先行的な取組として提案したい。 全く不十分という委員の意見があったが、十二分に対策は行われている。それをもっとアピールしていけば必ず成果に現れると確信している。 雇用を確保するために、企業誘致や新産業団地の整備に力を入れてほしい。人材不足に関しては、外国人へのPR、説明が必須。 地元中小企業への就業調査と支援が必要。
14	施策名	地域と連携した商工業の振興
	意見等	継続して事業に取り組んでほしい。 事業継承の仕組みを確立して都市部以外の商店等の廃業を食い止める必要がある。 商品券はデジタル化を進めて経費を減らし、少しでもたくさんの人に配布してほしい。 新たに開通した古峰ヶ原宮通りは、一部片側二車線になっており、大型商業施設を誘致し、住宅の増加につなげてほしい。 空き店舗活用をもっと促進してほしい。補助金を利用しやすいように内容の変更を希望する。 ものづくりと商店に偏っている印象がある。 工業・商業に対して、企業ニーズを把握し、補助について市が力を入れていくべき。 製造品出荷額等が増えているが、エビデンスはあるのか。

No.	内容	
15	施策名	資源を活かした「選ばれるまち」の創造
	意見等	東京でも「かめまのそばはおいしい」と評判だそう。東武線もJRも駅がある鹿沼をさらにPRすべき。 前日光県立自然公園など、魅力的な地域資源を活かしきれていないところがあるため、民間活力なども活用し、ストーリー性のある観光コースを作れるとよい。 市内来訪者の満足度を向上させることが増加につながるため、よく検討してほしい。 前日光ハイランドロッジはトイレと自動販売機のみでよいのではないか。 ハイランドロッジは宿泊を停止しているが、鹿沼市にとって重要な観光資源である横根高原を活用するためには再開が必要。対策を進めてほしい。 南摩ダムやスノーピーク鹿沼キャンプフィールド&スパをPRし、鹿沼の名産品販売につなげてほしい。 水源地域振興拠点施設は不要。花木センター「道の駅化」は必ず実現すべき。今の長所であるさつきを残しながら、いちごを主軸にしたアミューズメント化が必須。 観光については、パンフレット作成や多くの出店があるイベントを企画していくべき。 花木センターの道の駅化について、無駄な投資にならないよう実施していただきたい。ハイランドロッジを観光資源として十分に活かせる方法を検討してほしい。 「観光客」、「入込客」の定義を示すべき。
16	施策名	戦略的農業の推進
	意見等	就農する方への支援体制づくりが必要。 引き続き、後継者育成への事業展開をお願いする。 農業公社の規模・施設を拡大し、受託を増やすことが必要。 耕作放棄地が目立っている。活用意欲のある人に使ってもらえるような仕組みづくりを推進してほしい。 農地利用の多角化が必要。農業意識向上のため、小学校からイメージアップを図るべき。 若い人が取り組める新規就農を見出していくべき。もちろん鹿沼市に合った農作物を考え、安心安全な農作物の生産が必要。 新規就農者の支援、共同利用機械導入支援の更なる充実が必要。
17	施策名	持続可能な森林経営と木材の循環利用
	意見等	内閣府の策定する「経済財政運営と改革の基本方針2024」に掲載されている花粉症対策の杉苗の植樹の促進が必要。 面積の7割が森林である鹿沼市にとって林業の振興はとても重要。森林資源を永続的に活用できるよう引き続き事業継続してほしい。 林業従事者を増加させる施策の充実が必要。 森林の割合が多い鹿沼市はもっとその活用を考える必要がある。森林を活用した教育環境等を考えてほしい。 森林環境譲与税の活用により、鹿沼市全体の山林の整備拡大が必要。 人手不足を補う対策として、設備資金の補助金の拡大が必要。 災害対策の強化のため、保安林の拡大が重要。 林道整備は急務である。 鹿沼市の森林面積は広大であり、鹿沼ならではの林業の振興とそのための野生鳥獣対策、林道の整備が必須。 野生鳥獣対策の一環として、食肉加工場の新設について検討してほしい。
18	施策名	環境に優しい持続可能なまちづくり
	意見等	東京の学校は太陽光発電である。そのような考え方もある。 二酸化炭素排出量の削減のためには、市民・産業界・交通事業者が一体となった機運醸成が必要。 環境都市として脱炭素施策は体制の見直しを図り、円滑な施策実施に取り組んでほしい。 いろいろな場で照明のLED化は大きな効果を上げている。他の施策も考えて進める必要がある。 再エネに関しては、補助金なしでは増えない。家電導入については思い切った予算確保が必要。 脱炭素施策の位置づけを明確にし、市民にもわかりやすく説明し、自ら環境にやさしい生活をしていただく必要がある。 全庁的検討組織の設置と今後の取り組みに期待している。

No.	内容	
19	施策名	3 R の推進と循環型社会の形成
	意見等	引き続き、3Rの推進に注力してほしい。 3Rの更なる推進を期待する。 多くの市民の方から「収集日が少なすぎるので分別しない」と聞く。月に1度しか収集しないものなどは実態に即していない。分別強化＝収集日の拡充ではないか。 ごみの排出量について、市民ひとりひとりが減らすことを考えられるように3Rについて説明を丁寧にしていくべき。
20	施策名	持続可能で暮らしやすい都市空間の形成
	意見等	自家用車がなくても住みやすいまちづくりが必要。 空き家バンクの利活用について、特に登録に関する周知展開が必要。 空き家対策は、解体がさらに進むような施策が必要。 バス路線の減少や減便により生活の足を確保できない高齢者が多くなっている。NPO等の住民と協力して対策を進めることが急務。 空き家対策が不足しているように感じる。活用方法を積極的に検討する必要がある。 バス利用者への配慮を引き続きお願いしたい。 空き家については、解体とは別にリフォームにより働く人に安く供給し、鹿沼に住んでもらうことを検討する必要がある。 空き家バンク施策に関しては、他部署との連携が必須。現在の組織編成によるデメリットとして、上下水道や道路についての確認・調査不足、農地との絡みなどに縦割り行政の不合理性を感じる。また、都市建設部内においても再認定の可否や確認申請が出されているか否かなど、隣の部署であっても連携が薄いと感じている。 公共交通について、様々な課題があり、今後も市民によりそった支援が必要。マイカーからリーバス、予約バスに移行できる施策を考える必要がある。 地域主体の公共交通の導入を強力に支援し、推進していただきたい。
21	施策名	安全安心な水道水の供給
	意見等	水道水の継続的な安定供給のため計画的な事業を継続してほしい。 今後老朽化した配管の対策が増加するのは目に見えている。配管の新設だけでなく給配水のシステムそのものの検討が必要。 老朽管の更新目標値は大幅に上げるべき。このままのペースではいずれ大変な事故が発生する。 鹿沼市の水道水は、おいしいと評価をいただいているので、もっとPRし、全戸に広がる工夫をしてほしい。
22	施策名	良質で安全安心な水循環施設の整備
	意見等	埼玉県八潮市の陥没事故の事例を対岸の火事と捉えず、安全安心な設備維持に努めてほしい。 今後老朽化した配管の対策が増加するのは目に見えている。配管の新設だけでなく給配水のシステムそのものの検討が必要。 内水ハザードマップはかならず作成してほしい。この点が不安で物件購入を断念した方が複数いる。 大雨の際の雨水対策をしっかりし、安心安全なまちづくりが必要。下水道に関しては、計画の見直しを含め長寿命化に力を入れるべき。

No.	内容	
23	施策名	道路・河川・公園などの都市基盤の充実
	意見等	JR鹿沼駅東側の整備事業は、市民の利便性向上に期待ができるため、計画的な推進をお願いする。 公園があまり使われていなかったり、荒れているように感じる。管理を地域住民に任せるなどの対策が必要ではないか。 東日本大震災後の節電による街灯の消灯化や削減により安全性が損なわれている。特に、東中学校沿いの市道（府中町～貝島町）は通学路にもかかわらず、街灯が少なすぎて薄暮時から夜間の安全性が担保されていない。多くの方からこのような意見を耳にする。 市内の道路については、課題が多く、安心して生活できるように整備することが必要。特に通学に関連する道路は早急に整備してほしい。 施策の将来像が実現されるよう、今後も市民からの要望に迅速に対応しつつ、目標指標の達成に努めていただきたい。
24	施策名	様々な危機に対し生命と財産を守る防災力の強化
	意見等	地震や水害等による大規模災害の発生を想定した被害想定を「見える化」することなどにより、市民の危機意識の醸成を図る必要がある。 自主防災会の設立支援と同時に、市民への防災意識向上のための啓発も重要。 防災士の活用が重要。有資格者が増えても名ばかりでは問題。 水害対策を計画どおり国・県と連携して実施してほしい。 推進を図るのであれば、防災士の受験料と登録料には補助があってしかるべき。 防災士を増やすための施策はよいが、その後の研修、体験がなく、実際の災害時に役立つ、協力できる体制作りが必要。
25	施策名	強固で持続可能な消防体制の確保
	意見等	救急救命講習受講者数が増えていることは素晴らしい。自助・共助・公助に対する市民の意識向上につながっている。消防庁舎の整備は、予算の優先順位をよく見極めて判断してほしい。 消防団員の確保に苦労している地域が多くあると聞いている。対策が必要。 山林火災に対する安全意識の向上が必要。 消防団の充足率が低くなってきており課題。地域で率先してくれる団員の確保に力を入れてほしい。
26	施策名	安心して暮らすことができる生活環境づくり
	意見等	継続的に交通安全への啓発イベントを開催しながら、特に高齢ドライバーへのフォローに注力してほしい。 生活環境に関する相談が簡単に受けられることから始めるべき。 現在や将来の家族構成や社会環境の複雑化を考えると早急に整備していく必要がある。 暴走族が野放しになっており大変危険である。また、近年は高齢者による「横断歩道外」の無理な横断を多く見かける。歩行者優先の意味を錯誤した者を減らすことが急務。 これだけ車社会になっているので、事故にならない運転についてPRが必要。地域での講座に力を入れてほしい。 永代供養、墓じまいの際の課題等に引き続き柔軟な対応を取り入れた計画を望む。

No.	内容	
27	施策名	彩り豊かな協働による市民が主役のまちづくり
	意見等	日本人だけでなく、どんな国の人も協働できるコミュニティづくりが必要。 少子高齢化の進展により、地域を支える人々の意識が希薄化し、共助の維持が困難になっていることから、今後、地域主体の取組を行政としてどこまで支援していくべきなのかを検討する必要がある。 自治会加入率の低下が著しい中、コミュニティ活動の継続も厳しい現状だが、市民が積極的に参加できる地域づくり活動の実践が必要。 自治会を中心とした地域コミュニティの維持強化に力を入れる必要がある。 多様な主体の連携を進めなければ、行政だけでは市の将来は暗いものになってしまう。もっと積極的に進めるべき。加えて企業にも加わってもらいまちづくりを進める必要がある。 一部の限られた人のみの参加、リピートである点は否めない。 外国人も住んで良かったと思ってもらえるようなまちづくりが必要。コミュニティセンターの講座等、多くの住民が通うコミセンになるようなアイデアが欲しい。 ふらっとの活動、活躍が市全域に認知され、利用者数が目標指標を超えることを期待する。
28	施策名	多様性を認め合い誰もが個性や能力を発揮できる社会づくり
	意見等	多様性に対する理解度はまだ低い。男女共同参画については、男女とも意識改革が必要。 県外への女性の転出超過が著しい栃木県にとって、女性の活躍は今後あらゆる場面で必要となってくることから、職場環境の整備をはじめ社会全体で女性が活躍できる意識の変革を促すことが必要。 行政はもちろん民間事業所での女性活躍につながるような施策をもっと展開してほしい。 市審議会への女性登用率だけでなく、市職員の男女比率も目標とすべきであるとともに、目標値も50%に近づける必要がある。 多様化に対応するためには、まず「標準設定（デフォルト）」を明確にすべき。 まだまだ大切な人権教育・男女共同参画。もう一步のところまで来ているが、進め方等を変更してみるのも一つだと思う。 審議会等への女性の登用率が達成されていない。目標指標の引き上げも求める。
29	施策名	シティプロモーション・移住定住の戦略的推進
	意見等	移住先を探すにあたって必要となる要素は、まずは「仕事」と「住まい（居住環境）」なので、そのような情報をいかにワンストップで提供できるかが重要。 転入者が転出者を上回っている現状を見ると、シティプロモーションとしてのPR効果は出ている。今後も多種多様なツールを活用して情報発信してほしい。 栃木市や宇都宮市に比べ移住者が少なく流出が多いように感じる。今住んでいる人が本当に「住み続けたい」まちづくりが必要。 「観光」と「移住」は似て非なるものである。商工会議所主導のものだけでなく、私たちの力をもっと活用してもらえれば「移住」という視点での企画・運営は大幅に改善される。 鹿沼市のPRにもっともっとお金を使ってほしい。まずは鹿沼市を好きになってもらうことが大切であり、イベントのやり方も見直してほしい。 実際に移住された方への長期的な寄り添い支援を充実させることで、更に選ばれる鹿沼市を実現していただきたい。 「いちご市」と言うからには、駅周辺を始め、いつでもおいしいいちごを、色々なところで食べられる環境を創出していただきたい。 移住した人の割合ではなく、人数が重要。

No.	内容	
30	施策名	健全な行財政基盤づくり
	意見等	民間提案制度による公共施設の利活用は、有効な運用であるため積極的に取り組んでほしい。 今後は、学校再編により学校跡地が増えるので、さらに活用方策に力を入れる必要がある。 テレビ局で問題になっているリスクマネジメントやハラスメントについて管理職は全員理解している必要がある。 箱モノの公共施設は「廃止」「統合」も必要だが、活用を積極的に進めるべき。 継続を期待します。 公共施設の今後の利用について、課題も多いが、工夫、アイデアを出し合い、利活用に全力で取り組んでほしい。
31	施策名	行政情報の発信と市民の声の把握の充実
	意見等	市民へのわかりやすい情報発信を継続していくことで、市民の行政関心度の向上につなげてほしい。 ホームページの検索を改善する必要がある。見つけたい情報を得るのに時間がかかる。 広報かぬまについては、冊子を電子化するのではなく、HPそのものが広報と連動する形に進化させる必要がある。 情報の発信は、市民がまちを好きになる手段となる。情報からいろいろなイベントに参加できるなど、鹿沼市を好きになってもらえる。
32	施策名	多様な幸せを実現するためのデジタル化
	意見等	市民サービス向上につながる施策を継続してほしい。 デジタル化は必要不可欠なので早急に進めるべきだが、リスクを十分考慮する必要がある。特にAIについては多くの意見や情報を集めて進めるべき。 デジタル化の推進は重要施策かと思うが、デジタル弱者（特に高齢者等）といわれている人もまだまだ多数存在している。そのような人たちにとって暮らしづらくならないような施策を同時並行して進めてほしい。 役所に来訪しなければできない手続きがほとんどである。市民サービスにおいても窓口（コミセンを含む）に行かなくても完結するものを増やすことがゴールである。 マイナンバーカードの目標値が低すぎる。もっとPRをして、便利なものの意識を改革する必要がある。一人一人に寄り添った対応をしてほしい。 マイナンバーカード普及率の指標が既に目標達成されているので修正して更に普及していただきたい。